

「放課後等デイサービスガイドライン」の概要

総則

◆ ガイドラインの趣旨

◆ 放課後等デイサービスの基本的役割

子どもの最善の利益の保障／共生社会の実現に向けた後方支援／保護者支援

◆ 放課後等デイサービスの提供に当たっての基本的姿勢と基本活動

基本活動： 自立支援と日常生活の充実のための活動／創作活動／地域交流／余暇の提供 等

◆ 事業所が適切な放課後等デイサービスを提供するために必要な組織運営管理

設置者・管理者向け ガイドライン

児童発達支援管理責任者 向けガイドライン

従業者向け ガイドライン

◆ 子どものニーズに応じた適切な支援の提供と支援の質の向上

環境・体制整備／P D C Aサイクルによる適切な事業所の管理
従業者等の知識・技術の向上／関係機関・団体や保護者との連携 等

◆ 子どもと保護者に対する説明責任等

運営規程の周知／子どもと保護者に対する支援利用申込時の説明／保護者に対する相談支援等
苦情解決対応／適切な情報伝達手段の確保／地域に開かれた事業運営 等

◆ 緊急時の対応と法令遵守等

緊急時対応／非常災害・防犯対策／虐待防止／身体拘束への対応
衛生・健康管理／安全確保／秘密保持等 等

第5章 関係機関との連携

- 障害のあるこどもの発達支援は、こども本人が支援の輪の中心となり、様々な関係者や関係機関が関与して行われる必要があり、これらの関係者や関係機関は連携を密にし、適切に情報を共有することにより、障害のあるこどもに対する理解を深めることが必要である。
- このため、事業所等は、日頃から、関係機関との連携を図り、支援が必要なこどもが、円滑に放課後等デイサービスの利用に繋がるようにするとともに、こどもの支援が、こどもの通う学校等に適切に共有され、連携して行われることが必要である。
- セルフプランにより複数の事業所等を利用するこどもについては、適切な障害児支援の利用の観点から、利用する全ての事業所間において、こどもの状態や支援状況の共有等を行うなど、特に連携を図ることが重要である。

医療機関等

こどもの事故やケガ、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣に協力医療機関を定めておく必要がある。また、こどもが服薬している場合等には、保護者と連携を図りながら主治医との情報共有を行うとともに、医療的ケア児に支援を行う場合には、医療的ケア児支援センターや医療的ケア児等コーディネーター等との連携が必要。

市町村

支援の必要なこどもと家族を地域全体で支えていくため、地域のニーズや資源等を把握し、地域全体の支援の体制整備を行う市町村との連携が必要。

こども家庭センター・児童相談所

こども家庭センターによる支援が必要な場合や既に支援が行われている場合、きょうだいがヤングケアラーであると疑われる場合等には、こども家庭センターとの連携が重要。また、虐待が疑われる場合には速やかに事業所内で情報共有を行うとともに、児童相談所等と連携して対応を図ることが必要。

他の事業所・児童発達支援センター等

こどもの状態像や必要な支援の見立てについて共通認識を持つとともに、支援内容を相互に理解することが重要。児童発達支援センターは、地域における連携・ネットワーク構築の核として、地域の事業所へのスーパーバイズ等の実施や、研修・事例検討会の開催等を行う役割を担っており、日常的な連携体制を構築することが重要。

放課後等デイサービス

ライフステージに応じた関係機関

就学前に利用していた事業所等や、こどもが就職する場合や他の障害福祉サービス事業所等を利用する場合には、支援の連続性を図るため、保護者の同意を得た上で、情報共有を行うなど、積極的に連携を図ることが重要である。

(自立支援)協議会

自立支援協議会こども部会等へ積極的に参加すること等の連携が必要。自治会等への参加や地域のボランティア組織との連絡、地域住民との交流活動や地域住民も参加できる行事の開催などの地域との関わりの機会の確保が重要。

学校等

保護者の同意を得た上で、学校等から個別的教育支援計画をはじめとした支援内容の情報提供を受けるとともに、事業所からも放課後等デイサービス計画をはじめとした支援内容の情報を提供するなど、積極的に連携を図ることが必要。

放課後児童クラブ・児童館等

放課後児童クラブや児童館等に移行する際には、こどもの発達支援の連続性を図るため、保護者の同意を得た上で、放課後等デイサービス計画等を含め、こども本人の発達の状況や障害の特性、事業所で行ってきた支援内容等について情報を共有し、移行後のフォローアップを行うことが必要である。並行利用している場合は、支援内容等を共有し、支援をバックアップしていくことが重要。



学校 佐賀龍谷学園
龍谷中学校
龍谷高等学校





